

16年2月号「メイド・イン・ジャパン」特集より（全文）

日本エコレザー 日本基準で認定された環境に優しい、 安心・安全な革・革製品

環境への負荷を少しでも少なくしようというエコロジーへの関心が、世界的に高まっている。皮革の分野でも同様で、90年代半ばからヨーロッパを中心にエコレザーが普及し始めた。日本では06年に日本皮革技術協会と日本タンナーズ協会が共同で取り組み、日本独自の「日本エコレザー」基準が策定された。09年から日本皮革産業連合会が認定、運営作業を行っている。

「日本エコレザー」の基準は、日本オリジナルのものである。基準レベルは、最も厳しいとされる環境先進国ドイツ基準など世界基準と比べても遜色のないレベルにある。

「日本エコレザー」に認定される条件は6項目あるが（別表）、認定は革の製造段階から工場の排水・廃棄物の処理など製造環境にまで基準項目が及んでいる。

14年には日本皮革技術協会が主催した「第10回アジア国際皮革科学技術会議」が、岡山市で開催された。ここでの主要テーマは製革のテクノロジーと皮革産業の持続可能性戦略であり、世界の多くの研究者からエコレザーや皮革製造に関連した環境問題に関する研究成果が発表された。日本は皮革生産の多くを周辺アジア地域に頼っており、日本エコレザーの開発をはじめ、これまで取り組んできた環境技術をアジア諸国に広めていく良い機会になった。

日本エコレザー、6つの条件

1. 天然皮革である
2. 発がん性染料を使用していない
3. 有害化学物質の検査をしている
（ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料）
4. 臭気が基準値以下
5. きちんと管理された工場で作られた革
（排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造）
6. 染色摩擦堅ろう度（色落ちしにくい）が基準値以上

小売店や消費者にも啓蒙活動を続ける

現在、「日本エコレザー」に認定されている革と革製品の数は570件を超えている。この認証取得によって1点、1点の生産者（企業名）が公表される。認定ラベルを取得すれば、トレー

サビリティが取れ、環境に配慮した、技術力の高い企業であることをアピールすることができる。ここから革の受注が入るなど、企業活性化の起爆剤となった例も出ている。

「日本エコレザー」の周知、開発を推し進める日本皮革技術協会は、これまでのタンナーだけでなく、製品メーカーや卸に対しても、講習会やイベントを通して、日本エコレザーを使った製品開発を勧めている。

イベントでは、革が出来るまでの話や革の手入れ方法まで、革について学習するほか、日本エコレザーを使った実演なども各地で開催している。直近では2月9日、東京国際フォーラムで「革・革製品の基礎・応用知識講習会」を開催する。講義の中ではエコラベルの現状・必要性についても教える。

同時に小売店や消費者に対しては、「日本エコレザー」が、環境に優しい、安心・安全な革であるとの啓蒙活動を行っている。その一つが、15年12月3日、浅草文化観光センターで行った消費者対象のワークショップ「日本エコレザーを使ってブックカバーを作ろう」だ（写真）。25人の消費者が、染色仕上げにより、オンリーワンの作品を製作した。

